

令和6年度職員による自己評価結果について

学園では、教育目標の達成に必要な評価項目を設定し11名の教職員(会計年度任用職員も含む)が各評価項目を、「適切：4点」「ほぼ適切：3点」「やや不適切：2点」「不適切：1点」の4段階で評価し、結果は以下のとおりであった。

各項目の評価値の平均は、3.5で、最高3.6、最低3.2であった。

・「教育理念・目標」「学校運営」

学園では、人間として幅広く専門家として奥深い人材を育成することを目標とし、「子どもや保護者のこころを受け止める力の育成」、「現場に強い実践力の育成」、「自ら課題を見つけ主体的に取り組む力の育成」を通して、子どもの健やかな成長を願う保育士の育成に努めている。

学園の特徴として、伝統ある県立の保育士になるための専修学校であり、受け継がれる保育の心とともに、社会の変化に対応する保育を学んでいる。

これまで、4,200人を超える保育人材を保育業界に排出しニーズに対応してきた。学園での授業や実習においても、保育所やこども園、施設等の関係者から講義を受けるなどご協力を頂き運営している。

「教育理念・目標」の評価点は3.5、「学校運営」の評価点は3.5であった。毎週1回教務課会議、月1回の運営会議及び附属子ども園との連絡会議を開催して、情報を共有し連携を図っている。

また第三者による学校評価として「保育専門学園運営委員会」を、学校関係者による評価として「保育専門学園学校関係者評価委員会」を毎年、開催している。

・「教育活動」

「教育活動」の評価点は3.5であった。小人数の授業で、教員と双方向のコミュニケーションを図りながら授業を進めている。また授業内容は、実践に生かすことを常に配慮し、建物内にある附属こども園での授業や実習を通して「子どもたちから学ぶ」チャンスがたくさん得られ、実践に強い保育士に育てている。

授業内容は、各教員の意見及び学生の授業評価等も参考にしながら見直し、次年度の授業に反映している。保育実習では、学園で履修した知識・技能を基礎とし、現場での体験を通して保育の理論や技能を総合的に習得している。

保育学科の就業期間は2年間と短い、卒業と同時に保育士の資格を得ることができる。カリキュラムは、保育に必要な分野の知識や技能が習得できるように組んでおり、特に選択科目は、より実践的でかつ現場で活用できるカリキュラムで、積極的に履修するように指導している。

なお、3月に卒業する学生には、今後の職場への理解と激励のため卒業生を招聘し「卒業生を囲んでの懇談会」を2月に予定している。

・「学修成果」

「学修成果」は評価点3.5で、卒業生全員が保育士資格を取得する予定であり保育士資格に加えて、幼稚園教諭になるために、短期大学通信教育部との併修(2年75%、1年76%)をしておりその支援も行っている。

平成6年度の退学者は、身体的な理由により2年生が1名いた。休学している者も身体的理由で2年生2名いる。昨年度の退学者4名、休学者1名と比較すると今年度は少なくなっている。

就職を希望する学生のほとんどが、保育士・保育教諭の資格を生かした職に就き、令和5年度の就職率は100%である。

・「学生支援」

「学生支援」は、評価点3.5で、年1回の健康診断や実習前に検便を行うとともに、学生に対し自己の健康管理ができるように支援している。

また経済的な問題を抱える学生に対し、安定した学習環境が維持できるように各種支援情報の提供、生活状況の確認や相談に応じている。

学生には、就職希望先を考慮した保育実習先の選択や就職先の事前訪問等をするように指導するとともに、職員による模擬面接、小論文の添削指導なども行い就職活動を支援している。また、保育士応援フェアにも積極的に参加し、就職先選定の参考にするように促している。

卒業生の中には、近況を知らせに学園に立ち寄る者も多いが、就職しても短期で離職する者も見受けられるため、卒業生訪問として、6月～8月にかけて職員が就職先の全職場を訪問し、面談して現況を把握するとともに、様々な悩み事の相談に応じている。

また卒後3年目と6年目の者に文書による就職状況調査を実施しており、現在、令和6年度分も調査予定である。令和5年度分は、卒後3年目56.5%、卒後6年目39.2%であった。

・「教育環境」

「教育環境」の評価点は3.2であった。建物や設備の老朽化は進んでおり十分に整備されているとは言えないが、昨年度からオンラインによる授業ができる体制を整備し、今年度4月には授業用パソコンを旧型から現行型へ入れ替えを行った。

また、附属の認定こども園を敷地内に持つことで、常に保育環境や現場の雰囲気を感じることができ、保育現場への意識や保育に対するモチベーションの向上へとつなげている。

災害対策に関して、学園及び泉こども園全体での避難訓練を年2回実施している。

・「学生の受け入れ・募集」

「学生の受け入れ・募集」の評価点は3.6であった。令和6年度入学者数は、41名で、保育学科の定員60人を下回っているが、入学者の約85%はオープンキャンパスに参加していた。オープンキャンパスは学生募集に有用であり、毎年継続し実施している。令和6年度のオープンキャンパスは8月に2日間実施したところ77名（学生72名、保護者5名）の参加があり、学園の特徴や模擬授業体験、在学生との交流等を行った。また、オープンキャンパスに参加できなかった生徒には、随時、個別に学園見学を受入れ、授業見学、学生との交流を行っている。

今年度の受験希望者のうち、オープンキャンパス等に参加していた者は、約 9 割であった。

その他、入学生を増やすために、高等学校が開催する進路説明会に出身学生を派遣する体制整備や、学校説明会へ職員を派遣し学校の説明、手遊びなどの実技披露を行うなど、保育士の魅力を高校生に説明し学生の確保に努めている。

また、保育士資格に加え、幼稚園教諭免許を希望する学生には、豊岡短期大学通信教育部学習サポート校として、幼稚園教諭免許状（2 種）を取得することができる体制を整えている。

・「財務」

「財務」の評価点は 3. 6 であった。学園の目的や役割を果たすため、適切な予算執行を行っている。収入については、授業料等、収入の確保に努めている。支出については、光熱費や庁舎管理委託料等の経費節減に努めている。

・「法令等の遵守」

「法令等の遵守」の評価点は 3. 6 であった。文部科学省が確認する機関要件について、大学等における修学の支援に関する法律（「大学等修学支援法」）施行規則第 5 条第 3 項に基づき、毎年更新申請を行っている。

また、同規則第 7 条第 2 項に基づく更新確認申請書の公表も行っている。

・「社会貢献・地域貢献」

「社会貢献・地域貢献」の評価点は 3. 6 であった。地域住民との交流の機会の一つとしての保専祭（文化祭）については、コロナ前の通常開催を今年度から再開させることができ、10 月 5 日（土）に開催し 107 名の参加があった。保専祭のパンフレットを高校に送付し、保育専門学園の周知を図ったところ高校生の参加も見られた。また、学生の家族や友人、泉こども園の親子など外部からも招待し、楽しくにぎやかな雰囲気であり好評であった。

また、保育に関連し社会性を獲得する機会としてのボランティア活動については、障がい者スポーツ大会に学生が参加し、支援・交流を深めた。

なお、公開講座は、予約制で例年 2 回行っており、卒業生や現場保育士の資質の向上に貢献している。

平成 27 年度から施行された子ども・子育て支援新制度における「認定こども園制度」への円滑な移行・促進のために、石川県内の幼稚園教諭に対して、「保育士資格取得のための特例講座」を開講している。